

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 11-001 号	左京	八瀬かまぶろ温泉ふるさと <small>やせ</small>	昭和 29 年（1954）開業の旅館。八瀬遊園（1964－2001）開業に伴い、昭和 36 年（1961）に現在の地に新築移転した。3 階建ての本館の設計は、民藝建築家 宮地米三で、黒い古色の材と白い壁が美しく、堂々とした洋風山荘の雰囲気もある。
2	第 11-002 号	北	旧 秀粹庭園 <small>きゅうしゅうすいていえん</small>	染色家で呉服商・秀粹の社長であった市田美喜雄が、和服の展示場として造営した庭園。移築された建物が神山を背にした斜面に配置され、庭園内には道祖神などの様々な石造物が配されている。
3	第 11-003 号	上京	梶田家隠居所 <small>かじたけいんきょじよ</small>	明治末期の建築と伝わる、瓦葺切妻 2 階建ての梶田家の離れ。特にお茶室は侘び寂びが感じられ、素晴らしい。
4	第 11-004 号	上京	梶田家貸家 <small>かじたけかしゃ</small>	明治末期の建築と伝わる、瓦葺切妻 2 階建ての町家。虫籠窓や土間、火袋などは当時の姿を残してきれいに改修されている。
5	第 11-005 号	上京	篠屋の蔵 <small>きさやくら</small>	文政年間（1818～1830）に建てられたと思われる蔵。家業である西陣織に関する資料や調度品を収蔵し、代々受け継いできた。西陣織の伝統と共に残していきたい。
6	第 11-006 号	上京	とり市 <small>いち</small>	戦時中の昭和 17 年（1942）頃に建てられ、昭和 32 年（1957）に増改築された木造 2 階建ての店舗。表構えは妻入りで宮地米三の建築様式そのもの。書院造と民芸建築が融合した佇まいである。
7	第 11-007 号	上京	矢守家 <small>やもりけ</small>	昭和初期に建てられた高塀のある本二階の町家。鴨川で採取された亀石を使用した中庭（坪庭）や裏庭の残る佇まいを残したい。
8	第 11-008 号	左京	西雲院 <small>さいうんいん</small>	金戒光明寺の塔頭。元和 2 年（1616）に、宗厳が、金戒光明寺より法然ゆかりの「紫雲石」を贈られ、この地に開創したのが始まりといわれる。「紫雲石」をお護りする紫雲石堂は、延宝 8 年（1680）の再建。
9	第 11-009 号			(非公表)

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
10	第 11-010 号	左京	すがはらけ 菅原家	明治時代に火事にあった後に、再建された民家。梁の見える火袋やおくどさんをこのままの形で残していきたい。
11	第 11-011 号	左京	ちようみょうじ 頂妙寺	千葉中山法華経寺の僧である日祝上人が文明 5 年（1473）に開創した寺院。現在の堂宇は、天明の大火（1788）以後の建立。通り名「仁王門通」は、頂妙寺の仁王門を由来としている。
12	第 11-012 号	左京	ほうりんいん 法輪院	真正極楽寺（通称：真如堂）の塔頭寺院。仏間には、檀家でもあった画家の猪飼嘯谷（いかいしょうこく）の描いた 26 面の襖絵などもあり、それら什物を後世に守り伝えていきたい。
13	第 11-013 号	中京	きゅうじんけ 旧神家	神家は、江戸幕府が設けた秤座の西国責任者として秤の製造、販売、検定等を担ってきた家系。棟札に文政 7 年（1824）と書かれた巽蔵は、蛤御門の変の大火を逃れ、現在に至る。
14	第 11-014 号	中京	にしきてんまんぐう 錦天満宮	新京極の中にある菅原道真公をお祀りする鎮守社。地元では「錦の天神さん」として親しまれている。繁華街の中で心落ち着く神社で、ビルを突き抜けた鳥居も珍しい。
15	第 11-015 号	（非公表）		
16	第 11-016 号	東山	かげつあん 花月庵	円山公園の南に位置する茅葺きの庵。もとの建物は、西行法師が止住した雙林寺塔頭「蔡華園院」の跡地に建立され、享保 21 年（1736）に、天津禅師により現在の地に移築再興された。
17	第 11-017 号	東山	もみじあん 紅葉庵	約 80 年になる甘味処。築 130 年ほどになる建物は、網代の天井や扉、竹の格子、火鉢等、繊細で侘び寂びを感じる。
18	第 11-018 号	山科	しでいけ 四手井家	旧渋谷街道にある、中世から近世にかけて山科で展開した、旧・山科郷士の長屋門のある屋敷。中世にはこの地に「四手（野）井城」という城があったことが明らかにされている。
19	第 11-019 号	下京	けんびしや 釘菱弥	元禄 3 年（1690）創業の元呉服の製造卸。現在の建物は、大正期の建築と思われる本二階の町家で、主屋と離れの間には、大きな躰を置いた庭が配されている。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
20	第 11-020 号			(非公表)
21	第 11-021 号			(非公表)
22	第 11-022 号	下 京	れんきゅうじ 蓮久寺	寛文元年(1661)創立の日蓮宗の寺院。山門は吉野門と呼ばれ、2代目吉野太夫による寄進の赤門である。
23	第 11-023 号	右 京	はねだしゅぞう 羽田酒造	京北に構える明治26年(1893)創業の酒蔵。地域の財産でもある木造蔵は、築100年を超える。敷地内には、「祝米(酒米)」の田園があり、地産・自産の昔ながらの酒造りを続けている。
24	第 11-024 号	伏 見	きたむきざんふどういん 北向山不動院	都を守護するために不動明王を北向きに安置したことが起こりとされている。現在の本堂は、江戸期に東山天皇の旧殿を移築したもの。
25	第 11-025 号	上 京	かじたけ 梶田家	明治45年(1912)頃に建てられた表屋造の町家。正面に出格子を設け、揚げ見世を残し、2階は黒漆喰仕上げで虫籠窓を穿つ。表蔵と雑物蔵も残る洗練されたつくりの京町家。
26	第 11-026 号	左 京	きゅうしげもりみれいてい しょうきあん 旧重森三玲邸(招喜庵・ しげもりみれいていえんびじゅつかん 重森三玲庭園美術館)	江戸期に建てられた吉田神社の社家の邸宅。昭和18年(1943)に、庭園家の重森三玲が譲り受け、庭園や茶室を設けた。書院前の枯山水庭園が印象的である。
27	第 11-027 号	左 京	しらかわいん 白河院	呉服業を営んでいた下村忠兵衛の別邸として、大正8年(1919)に竣工した。庭園は、7代目小川治兵衛によって手掛けられたもの。武田五一が設計した和館や表門が残る。
28	第 11-028 号	東 山	パビリオンコート きょうとやまなかしょうかい (株式会社 京都山中商会)	元は古美術品の展示・収蔵施設。洋館、和館、門がある。大正9年(1920)池村元之助設計により建てられた洋館は、煉瓦積の壁体に鉄筋コンクリート造の梁とスラブを用いている。